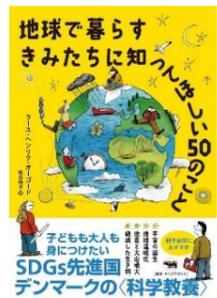


知識の本

1



2



3



4



8



9



日本の読み物

10



14



5



6



7



11



12



13



令和3年12月発行

鶴ヶ島市立中央図書館

*紹介文はTool-i 週刊新刊全点案内より

1 『地球で暮らすきみたちに知ってほしい50のこと』
 ラース・ヘンリック・オーゴード／著 梶谷 玲子／訳 晶文社
 SDGs 先進国、デンマーク発の「科学教養」の本。星はいくつあるの？ 死んだらどうなる？ 時間って何？ 自然、動物のことから、人間の発明や社会の問題、人生についてまで、子どもがよく思いつく50の疑問に答える。

2 『偉人たちの人生図鑑』
 山崎 圭一／監修 宝島社
 織田信長、徳川家康から、渋沢栄一、北条政子まで、日本史の重要人物100人を取り上げ、代表的な出来事をそのときの年齢とともにイラストで紹介。残したとされる言葉や、経歴、偉業、功績なども掲載する。

3 『あなたを閉じこめる「ずるい言葉」』
 森山 至貴／著 WAVE出版
 「あなたのためを思って」「悪気はないんだから」…。 “カクレ悪意”や“カンチガイ善意”を見抜け！ 大人より弱い立場にある子どもが、「ずるい言葉」にだまされないようにするためのヒントを伝える。

4 『すべての人に星空を』
 高橋 真理子／著 新日本出版社
 「病院がプラネタリウム」は、長期入院をしている子どもたちや難病児者と、その家族のもとへ出向き、星を届ける活動。初めて星空に出逢った子どもたち、親たちに湧く力。星空を届けるなか生まれた物語を紹介する。

5 『チバニアン誕生』
 岡田 誠／著 ポプラ社
 千葉県原市にある地層には、約77万年前に地球の磁場が逆転したことを示す痕跡が残されていた！ 地層に刻まれた痕跡から太古の地球の姿を考える地質学の魅力に迫り、地質年代「チバニアン」承認までのドラマを紹介する。

6 『女の子はどう生きるか』
 上野 千鶴子／著 岩波書店
 生徒会長はなぜ男子だけ？ 男女で進路がわけられるのはなぜ？ 痴漢にあうのは私が悪い？ 女の子たちが日常的に抱くモヤモヤや疑問に上野先生が全力で答えます。自分らしい選択をする力を身につけるための一冊。

7 『日本全国ゴミ清掃員とゴミのちょっといい話』
 滝沢 秀一／著 主婦の友社
 ゴミ分別を教えてくれるAI、24時間営業の生ゴミボックス、非食用米を使ったバイオマスプラスチックのゴミ袋、美しすぎるゴミ処理場…。日本全国、各自治体のゴミへの取り組みやちょっといい話を紹介する。

8 『図解でわかる14歳からの宇宙活動計画』
 インフォビジュアル研究所／著 太田出版
 SF小説や未来予測の中で語られていた宇宙探検や宇宙旅行は、もう私たちの日常の暮らしとつながっている。月軌道プラットフォーム、火星移住等の宇宙事業、ISS、太陽系の惑星、宇宙の謎などについてカラー図版で解説する。

9 『吹奏楽部バンザイ!!』
 オザワ部長／著 ポプラ社
 青春をかけて大好きな音楽に没頭していた吹奏楽部員たちを突如襲ったのは、新型コロナウイルスだった。自分たちの音楽を外部に届ける機会を失ったが…。コロナに立ち向かった吹奏楽部員たちを描いたノンフィクション短編集。

10 『エリーゼさんをさがして』
 梨屋 アリエ／著 講談社
 うまくならないからと母親にピアノ教室を辞めさせられ、落ち込んでいた亜美。ニット帽にピアノブローチのおばあさん・エリーゼさんたちとの出会いや美術男子・水野くんと不思議な関係を通して、亜美の日常は変わっていき…。

11 『はなの街オペラ』
 森川 成美／作 くもん出版
 時は、大正時代。東京に奉公に出て、ひよんなことから歌のレッスンを受けることになったはなは、次第にオペラに関心をもつようになり…。困難な状況にある人々が、逆境のなかでも、音楽の力を信じ、明日へ進んでいく物語。

12 『ボーダレス・ケアラー』
 山本 悦子／著 理論社
 祖母が飼っていた犬の豆蔵が死んでひと月あまり。海斗は豆蔵の空のリードを持って散歩をすると、死後の世界へ行かず生と死のはざまに立っている存在、「ボーダー」の姿が見えることに気がついて…。

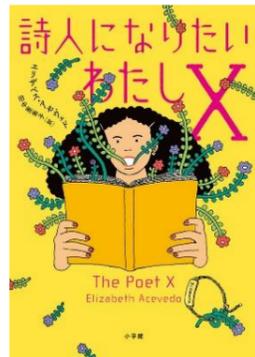
13 『#マイネーム』
 黒川 裕子／作 さ・え・ら書房
 両親の離婚で名字が変わった明音は、SNSで地元中学生限定のスレッド<自分の名前がきらいなやつ集まれ #マイネーム>に出会う。スレッド主が自分の呼ばれたい名前を名札をつけようと呼びかけると、明音たちは熱狂して…。

14 『メイドイン十四歳』
 石川 宏千花／著 講談社
 ナチュラルボーン優等生が、透明人間となかよく学校生活!? 進学校に通う中2の吉留藍堂はクラスでいちばんの優等生。ある日、透明人間の転校生の案内係を頼まれてから、クラス内で微妙な立場がくずれてしまい…!?

15



16



17



18



19



20



おすすめ本 中学生



15 『青いつばさ』
シェフ・アールツ／作
長山 さき／訳 徳間書店

16歳のヤードランと11歳のジョシュは、仲よしの兄弟。ジョシュは、知的しょうがいがある兄を幼いころから守ってきました。しかしある日、ヤードランがジョシュに大ケガをさせてしまい、兄弟は引き離されそうになって…。

16 『詩人になりたいわたしX』
エリザベス・アセヴェド／作
田中 亜希子／訳 小学館

ハーレムで暮らす15歳の少女・シオマラは、厳しい母親に猛反発していたが、高校のポエトリー・スラム部で詩のパフォーマンスを知り、自己表現の世界にのめり込んでいく。全編を詩で描く、家族と恋と友情の物語。

17 『ダリウスは今日も生きづらい』 アディープ・コラーム／著 三辺 律子／訳 集英社
家でも学校でも疎外感を覚える、ペルシア系アメリカ人のダリウス。母の故郷イランで、はじめての友達ができるが…。民族や性的指向など多重のアイデンティティに悩む16歳の友情と成長を描く物語。

18 『ミシシッピ冒険記』
ダヴィデ・モロジノット／著
中村 智子／訳 岩崎書店

1904年、ミシシッピ川の河口地帯で暮らすテ・トワたちは、沼で拾った3ドルでピストルを買うが、通販会社から届いたのは壊れた懐中時計。しかしそれには法外な価値があり…。スリルと謎にみちたアメリカ縦断の旅の記録。

19 『楽園のむこうがわ』
ノリタケ・ユキコ／作
椎名 かおる／文 あすなろ書房

島に上陸したふたりの少年は、理想の家づくりを始めました。ひとりは、森と調和した家。もうひとりは森を開発し、都会的な家。そして、1年後…。パリで活躍する若き日本人アーティストが描くふしぎな絵本。

20 『ザ・ギバー』
ロイス・ローリー／作
掛川 恭子／訳 講談社
人間が探し求めていた、平和で整然とした究極の理想社会。それとひきかえに失ってしまったすべての記憶。ユートピアは本当に存在しうるのか。現代社会に問いかける、衝撃の近未来小説。

令和3年12月発行
第45号

鶴ヶ島市立図書館

